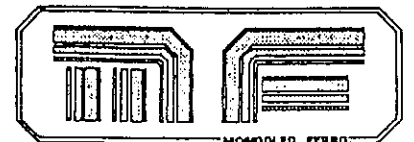
取扱説明書

SL 2500 L

USO E MANUTENZIONE
USE AND MAINTENANCE

PANG

総輸入発売元
株式会社 パングタイヤサプライズ

取扱説明書

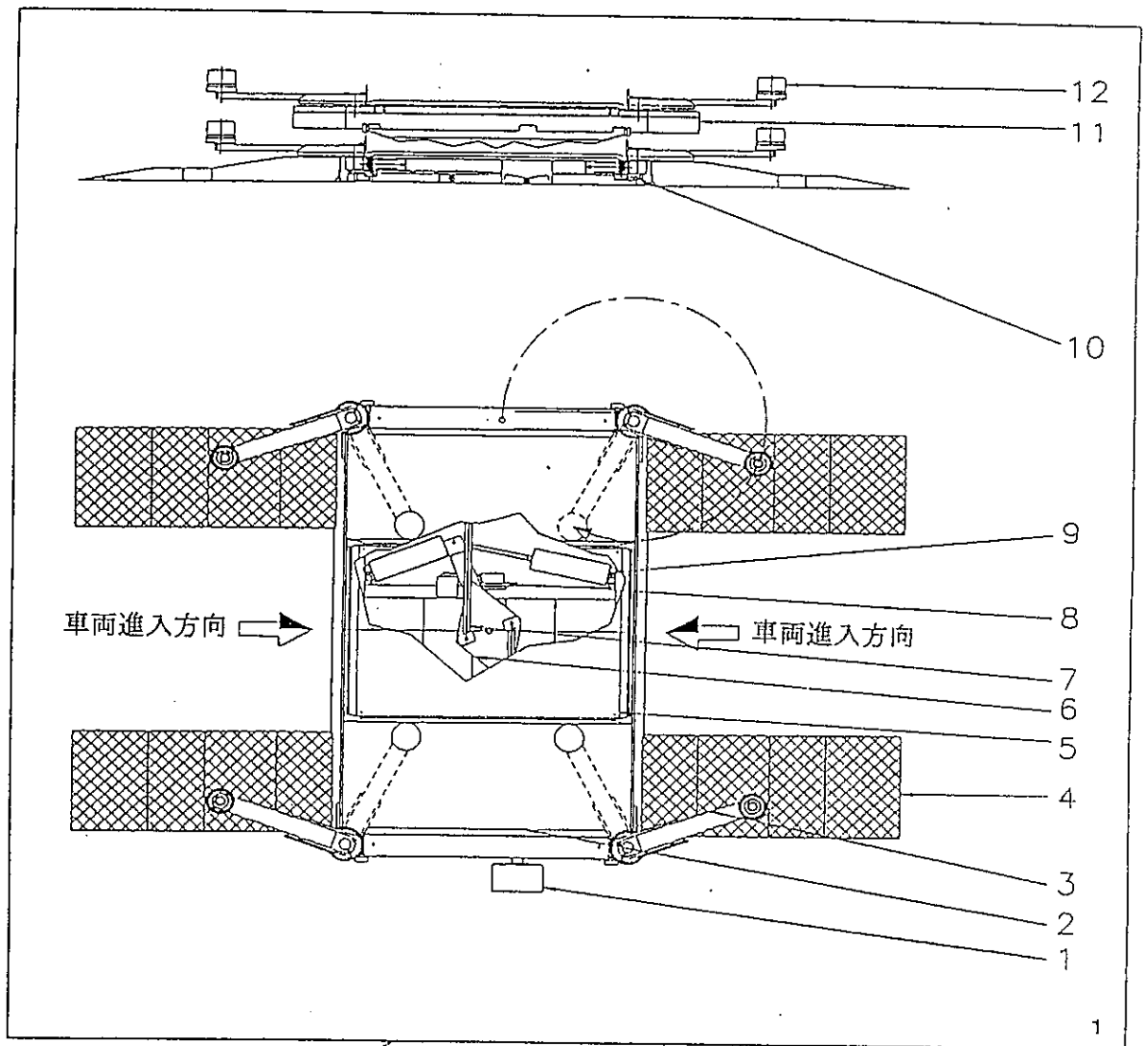
ＳＬ２５００Ｌ

警告
使用する前に取扱説明書を注意深く読み、よく理解してからこの製品をお使い下さい。 本取扱説明書は、いつでも使用できるように、大切に保管して下さい。

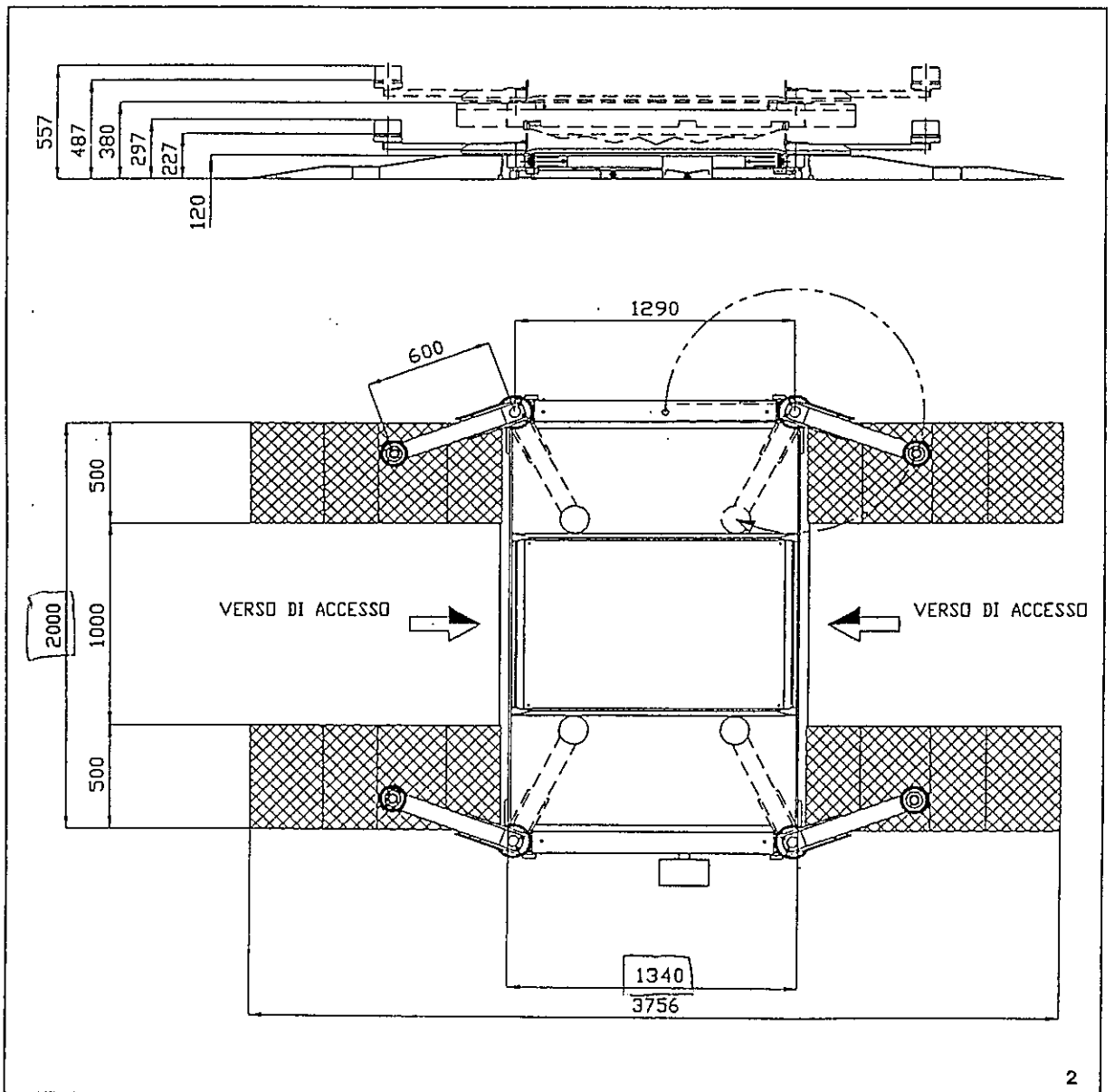
目 次

ページ

１．各部名称　図１

1.コントロールペダル
2.プラットホーム
3.回転アーム
4.取り外し式ランプ
5.中心部保護ガード
6.リターン・バー
7.ロッド
8.機械的安全装置
9.シリンダー
10.ベースプレート
11.保護バンド
12.ゴムパット

2.　寸法及び仕様

最大荷重 2500kg
大きさ　縦 3750mm
　　　　横 2000mm
最上位到達迄の所要時間 8秒
必要エア圧 10bar
重量 390kg
リフトが作業位置まで上昇時の騒音度数 .... 76.1db (A)

全体図　図2

３． 名 版

製造者：　　　MONDOLFO FERRO SPA
製造者住所：　MONDOLFO VIALE DELL7INDUSTRIA 20 (PS) ITALY
製造年：
名称：　ＳＬ２５００
セリアル番号：

４． 使用目的

このマニュアルは製品の一部です。
安全使用及び保守に関する重要事項が記載されて居ますので、マニュアルに書かれている注意書き及び指図書を良く読んで下さい。

！　重要
使用中に不審な点が出てきた時は、このマニュアルを参照下さい。

ＳＬ２５００は、２５００ＫＧまでの乗用車／ライトバン等を持ち上げる様に設計されて居ます。使用中のプラットホームにかかる負荷の分布は、以下の規定通りになるようにして下さい。最高容量２５００ＫＧに対し、フロントに３／５、リヤに２／５以上の荷重がかからないようにして下さい。それは車の安定性やリフト自身の安全性を保つために絶対に必要な条件です。

⚠　注　意
当機は、本来の設計目的の為だけに使用してください。それ以外の目的に使用された場合は不適当で不合理な使用と見なされ、製造者は、それが原因で起こる損害の責任を負いかねます。

当機は、本来の設計目的の為だけに使用してください。他の目的に使用された場合は不適当で不合理な使用と見なし、製造者は、それが原因で起こる損害の責めを負い兼ねます。

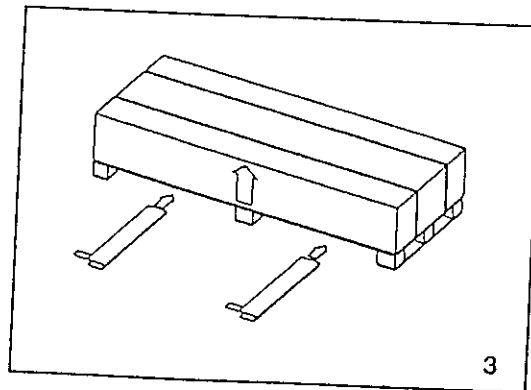
５．安全規定

当機の操作に際しては、特に訓練をうけた指定された人のみで行って下さい。
メーカーの承認の無い当機の変更や改造や不適切な干渉が原因と思われる損害の責任はメーカーはその責任を免ぜられるものとする。 安全装置の除去や変更はＰＬ法（安全規定）の侵害とみなします。

－ 当機の使用は爆発や火災の危険の無い場所でのみ使用して下さい。
－ オリジナルの付属品のみを使用して下さい。当機はオリジナルの付属品を用いて使用する様に設計されています。
－ 設置は指示された手順で専門家が行うようにして下さい。
－ 操作中に危険な状態が無い事を常にチェックしていて下さい。不都合が見つかった場合は即ちに機械を止めるようにして下さい。

６．運　送

梱包された機械の輸送には下記の方法で行って下さい。

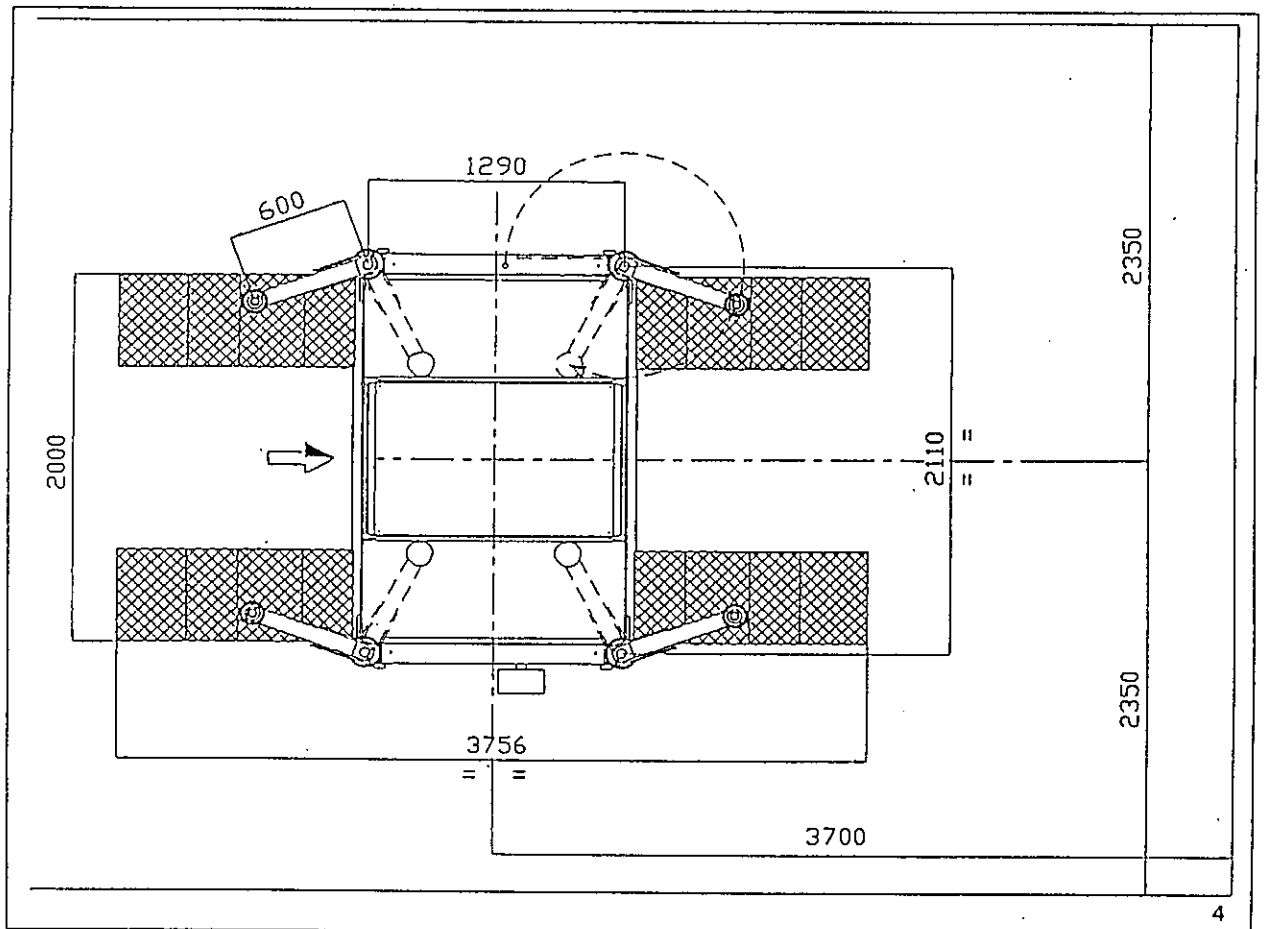
移動に際しては、パレットに乗せて、図３に示した様に適切な場所にフォークリフトを差し込んで行って下さい。

7.　開　梱

設置場所へ移動したら、当機が完全である事（外観上破損が無い）を
確認して下さい。損傷がある場合は、使用しないで業者を呼んで下さい。

⚠　注意

付属品の入った箱はラピング包装されていますので、包装ごと捨てないで下さい。
梱包材料（プラスチックバッグ、ポリスチレン、ネジ、材木等）は、怪我の
危険がありますので、子供のての届く処に放置しないで下さい。
廃材は所定の施設又は所定場所へ廃棄して下さい。

8．　設置場所

当機の設置には、図4に示した様に４７００mm　x　５５００mmの自由に使える空間が必要です。

関係の無い人や危険の原因になる物等を作業場所へ入れないようにする為、
操作者が操作位置から機械やその周囲を見られるところに当機を設置して下さい。

機械は水平の取れた所に設置して下さい。コンクリートやタイル張りの上が最適です。

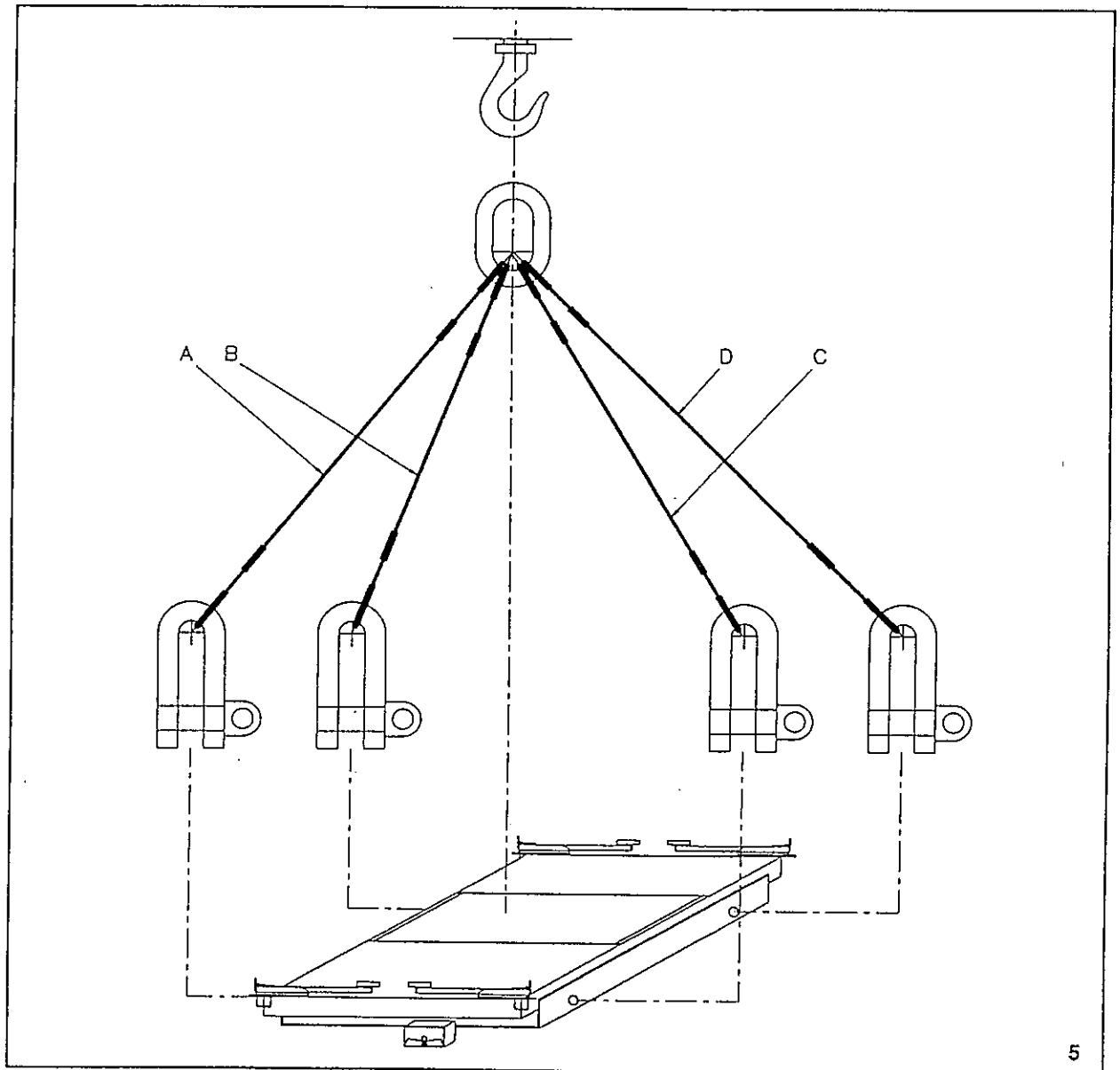
軟弱な地盤や水平でない所は避けて下さい。

機械は、本体及び車の重量を含む操作時の負荷を支えなければなりません。
設置表面は５０KG／cm²、２５０R' bk以上の荷重に耐えられなくてはいけません。

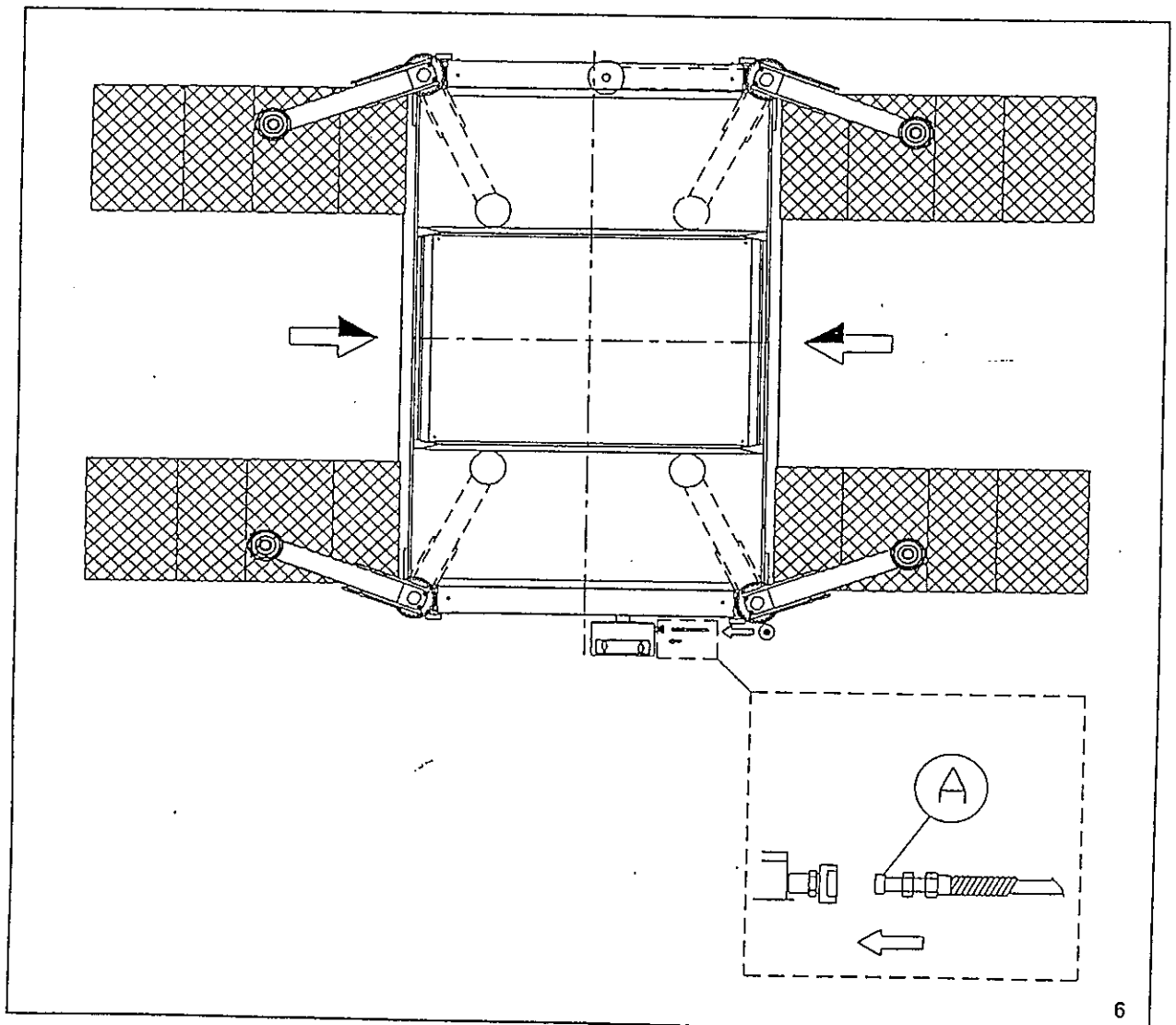
９．　設　置

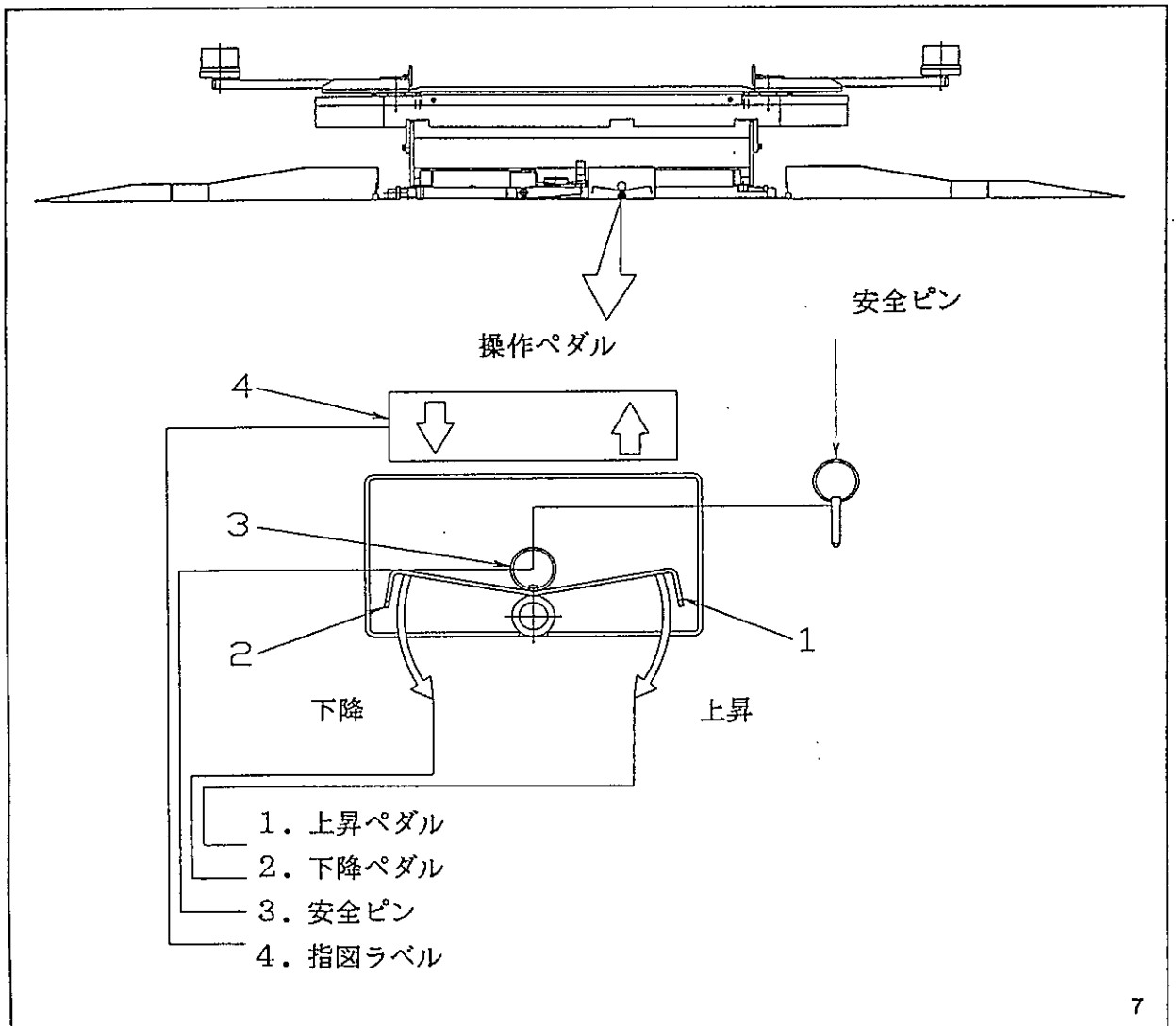
開梱したら、組立を行う為に部品を適当に置きますが、移動の際は、本体部分にフックを取り付け必ずワイヤーロープを使って床にリフトを正しく配置する事が必要がです。（図５を参照）。

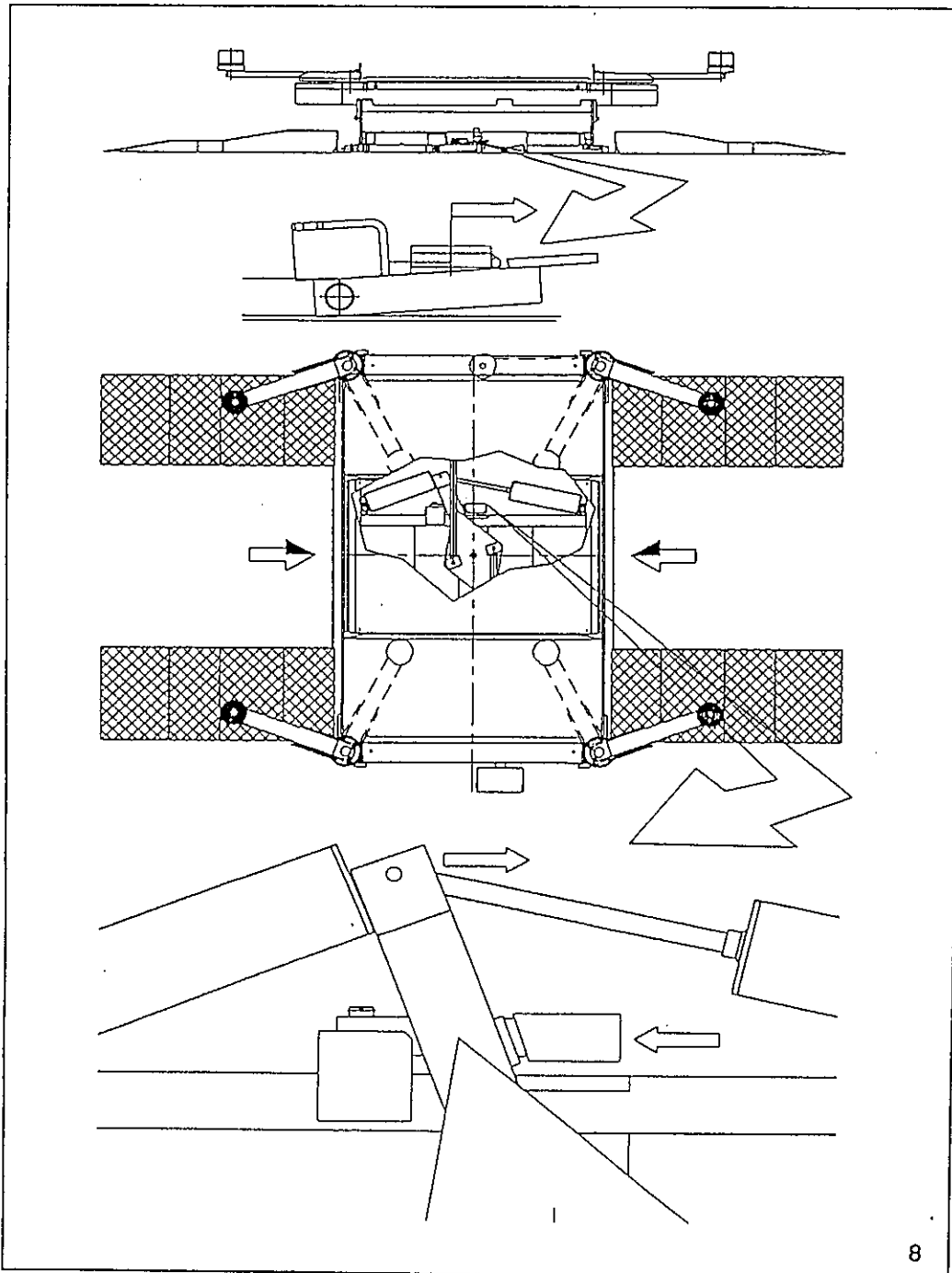
ロープ径：　８ＭＭ
容　量：　２４００ＫＧ
長さ：　１６００ＭＭ

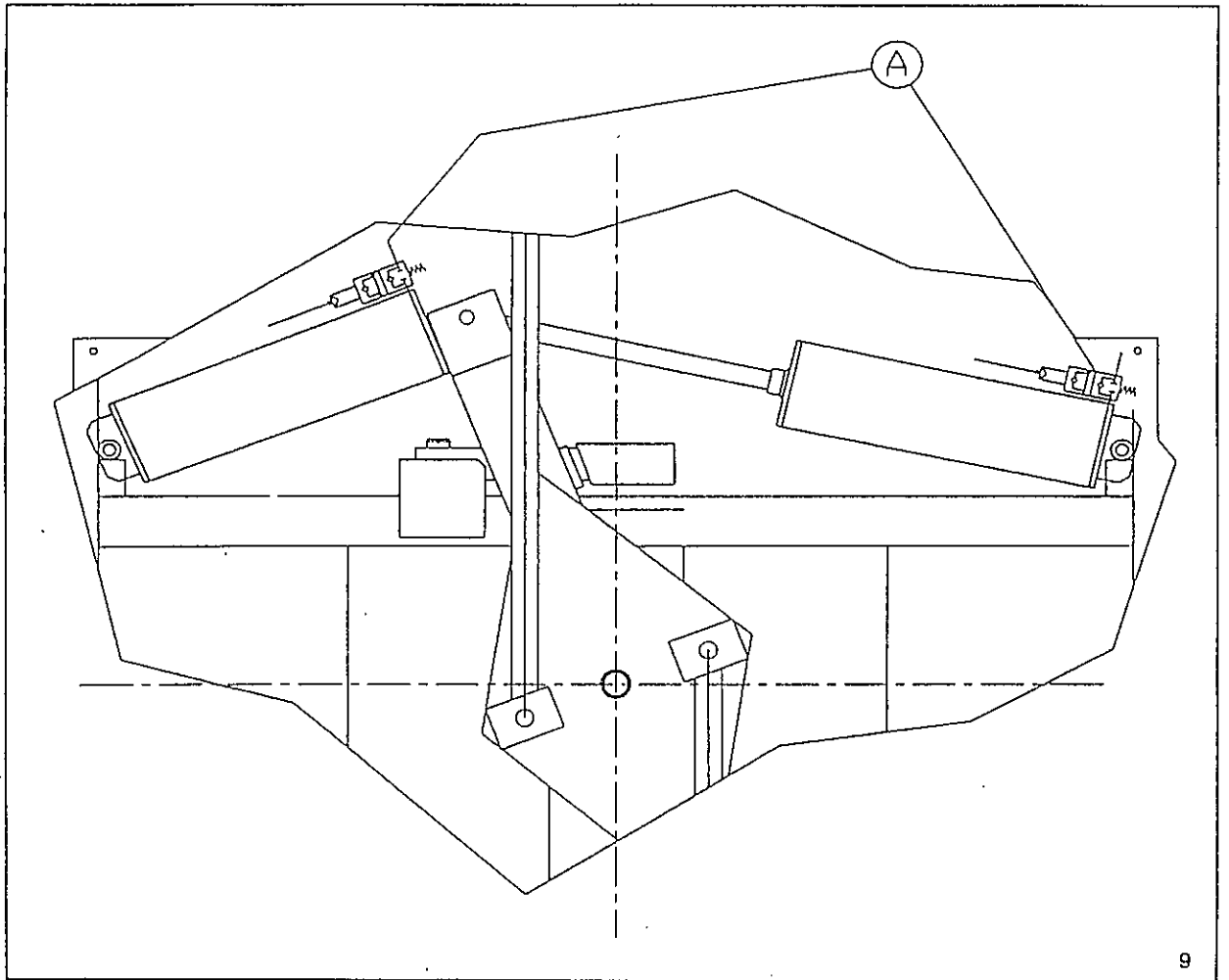
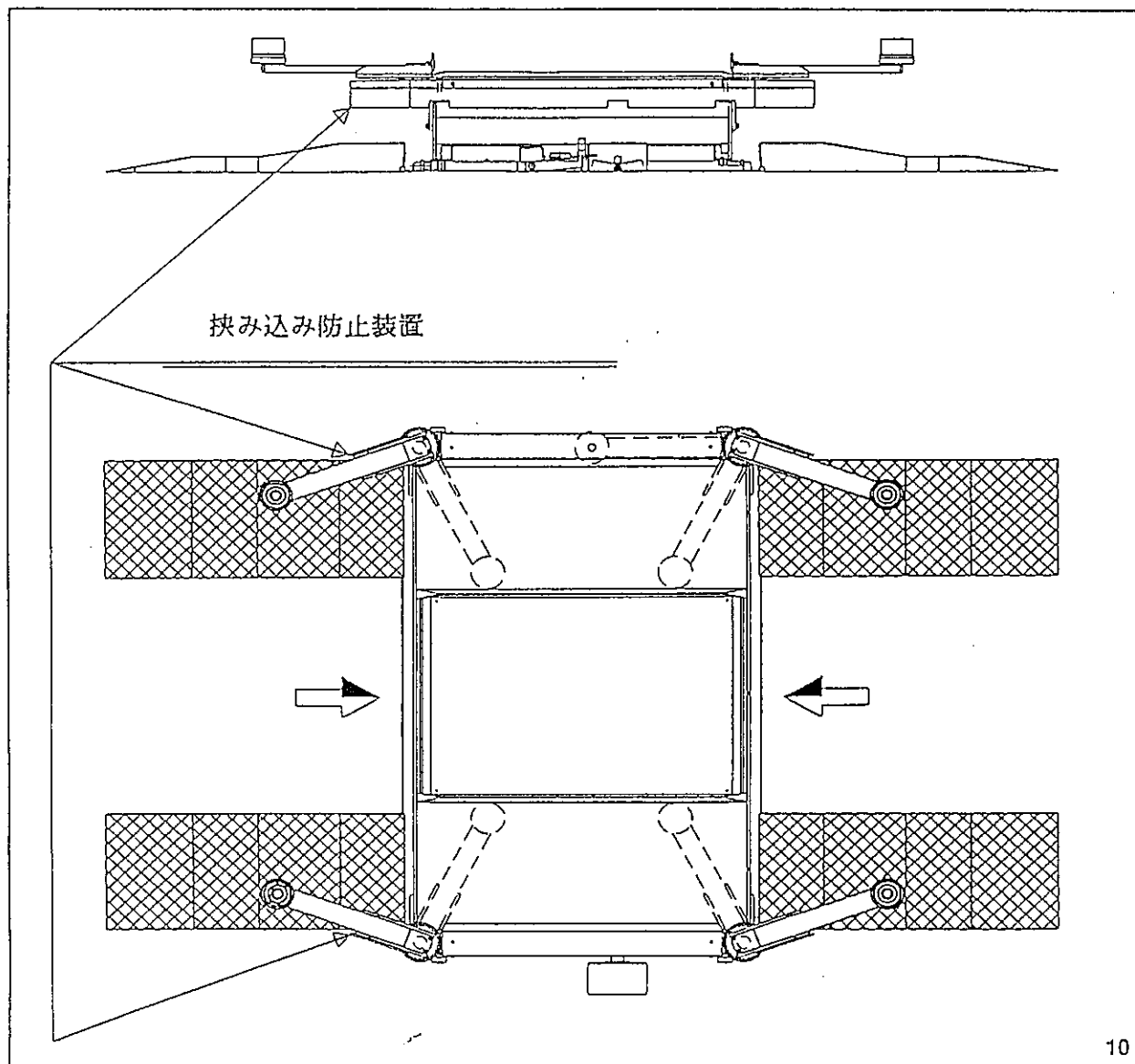
図５　－　リフトへのフックの位置

９．１　空圧配管

エア供給元とクイックカプラー（図Ⓐ）で接続して下さい。

⚠　注　意
上の項目に従わないで、生じた故障対して メーカーはその責めを一切負いません。 また、同時に当機の保証書は、その効力を失うことになります。

１０．安全装置

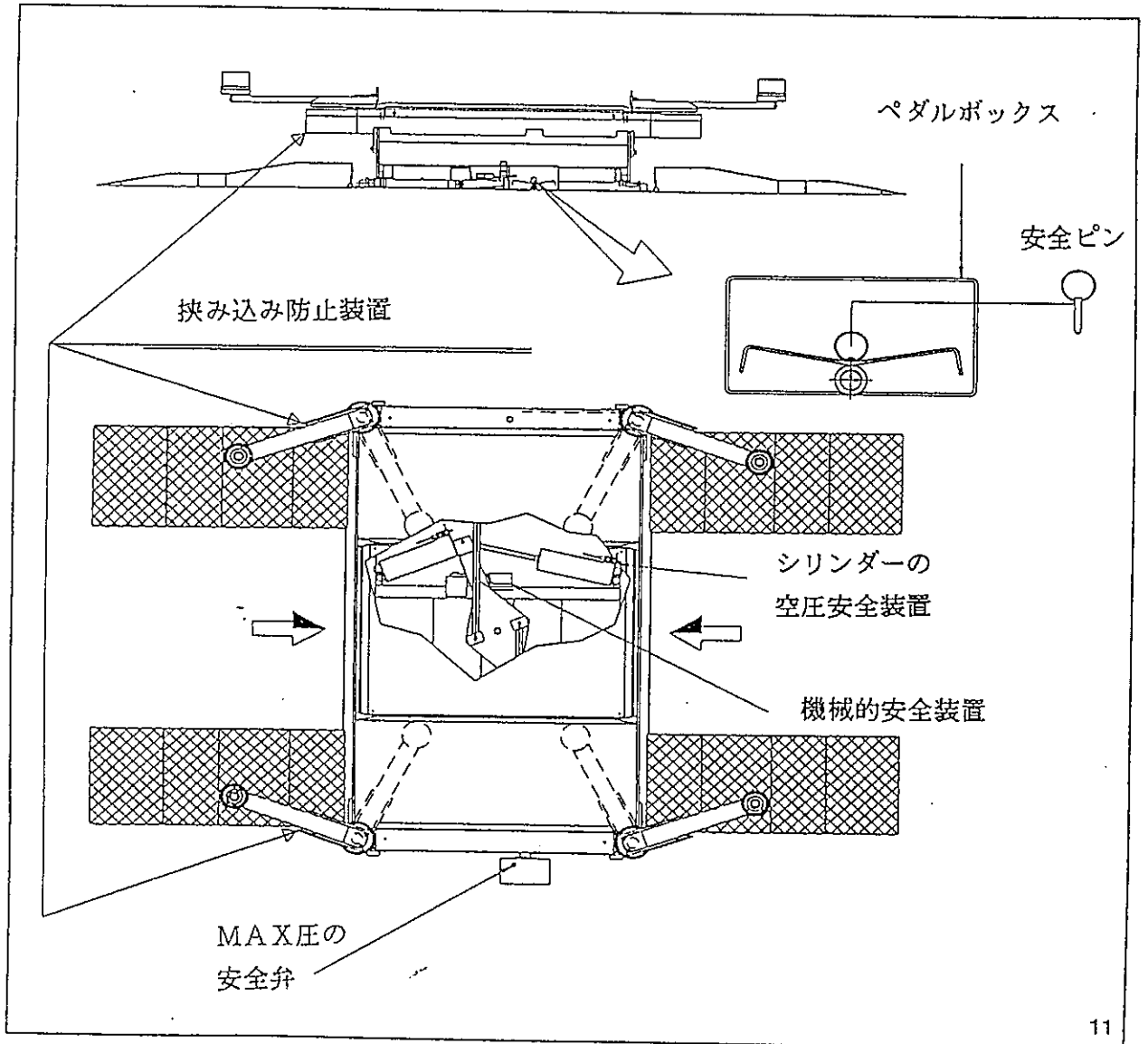
当機には、４種類の安全装置が内蔵されており、不測の事態が生じた際に作業者の安全を確保します。（図７）

ー機械的安全装置

この装置は、”つめ”と”溝（ストッパー）”から成る装置で（図８参照）、油圧パイプが破損したりどこか回路が破裂した場合でも、”つめ”が”溝”に入り、リフトが急降下するのを防ぎ、地上１００ＭＭの高さで停止する為の装置です。それ故、この重要な装置は常に完全に機能する様にして置く必要があります。改造や取り外しは絶対にしないで下さい。これは機械的に作動します。図８

ー空圧装置

空圧シリンダーのドレーン部にあるロッキングバルブ（図A）による安全装置です。空圧供給ラインにおいて、突然の空圧パイプの破損・破裂等が起こった時に、シリンダーからエアが抜けるのを防ぎ、リフトの急激な降下を防止します。

ー挟み込み防止装置　図１０．
帯状のゴムから成る装置で、プラットホームに付いています。下降時等、プラットホームとシリンダーの間の間隔が少なく成ったために起こる危険を、予め作業者に警告する装置です。図１０

警　告

オペレーターの安全の為、安全装置はむやみに干渉したり、排除したり、移動させたり、取り外したりは絶対にしないで下さい。もし禁止事項を守らずに生じた事故、損害に対してメーカーは責任を持ちません。

１１．操作

図１１．　コントロールペダル

ーコントロールペダル（上昇／下降）

このペダルを操作することによって、リフトが上昇、下降します。作業者は、周囲に気を使い必ず注意深く作業し、その作業区域に許可を受けていない者が侵入するのを防がなくてはいけません。

ーセフティ・プラグ（安全ピン）

作業中にこのセフティプラグを抜くと、上昇・下降ペダルが機能しなくなり、このリフトの動作は完全に固定されます。（操作出来なくなります。）それ故、許可を受けていない人の作業区域への侵入は、大変に危険な状態を招くことになります。

１２．試運転

⚠ 注　意

設置後の試運転は、外見上のチェックだけでなく、電気及び機械的安全装置の機能テストも行いますので、専門の技術者が行うようにして下さい。

試運転行うための、有資格者用のマニュアルが、本取扱説明書の後半部分に記されています。絶対に非有資格者にサービスは依頼しないで下さい。

⚠ 注　意

上の項目に従わないで、生じた故障対してメーカーはその責めを一切負いません。
また、同時に当機の保証書は、その効力を失うことになります。

１３．日常的保守

機械の有効且つ正しい作動を行う為に、機械の清掃及び点検を行うことが必要です。
１００時間の運転に１回の割合で、下記の指示にしたがって行って下さい。

1.機械的安全装置が機能している、リフトが安定している状態で清掃及び点検を行って下さい。
1.安全ピンを抜いてから、清掃及び点検を行って下さい。
1.下記のオイル表を参照にして、１００時間毎に必要箇所にオイル・グリースを給油して下さい。

メーカー名	オイル	グリース
ＡＰＩ	ＣＩＳ３２	ＡＰＩＧＲＥＳＥＬＴ ＬＴ－Ｓ
ＭＯＢＩＬ	ＯＩＬ ＤＴＥ２４	ＭＯＢＩＬＰＬＥＸ ４６
ＳＨＥＬＬ	ＴＥＬＬＵＳ ２５	ＡＬＶＡＮＩＡ ＥＰ１
ＥＳＳＯ	ＮＵＴＯ ＨＰ ３２	ＢＥＡＣＯＮ ＥＰ１
ＢＰ	ＥＮＥＲＧＯＬ ＨＬＰ６５	ＥＮＥＲＧＲＥＡＳＥ ＬＳ １ＥＰ
ＦＩＮＡ	ＨＹＤＲＡＮ ３１	ＭＡＲＳＯＮ ＥＰＬ１

1.機械的安全装置が機能しなくなる恐れがある為、リフト清掃時には、外部から異物が侵入しないよう十分に注意して行って下さい。

１４．操作方法

ＳＬ２５００は、オペレーターの安全のため、指定された人のみ操作するようにして下さい。このマニュアルに中で説明されている詳しい使用方法を理解していない人が使用することは、大変危険なことです。操作手順は以下の通りです。

― 車の位置決め

車をリフトの中央に進入させ、ラバーパットを所定位置に置きます。（オプションのアームを使用される時は、車のリフティング・ポイントにアームを合わせます。）
上昇操作は、４つラバーパット（及びアーム）が、正しく設置されてから行って下さい。

― 上昇
上昇ペダル（上昇ステッカーの示すペダル）を踏むと、リフトは上昇します。車及びリフトが適切に上昇しているか確認して下さい。最上位に達したらペダルを放して下さい。機械的安全装置によってリフトは固定されます。セフティプラグを抜いてから、車の作業に入って下さい。

― 下降
コントロールペダルにセフティプラグを差し込み、上昇ペダルを踏んで下さい。リフトは少し上昇し、機械的安全装置が外れます。機械的安全装置が外れたら、下降ペダル（下降ステッカーの示すペダル）を踏み、リフトを下降させて下さい。リフトが最下位まで下がったら、ペダルを放し、車を移動させて下さい。

１５．長期放置の注意

長期間機械を使用しないで放置して置く時は、エア供給元を外して下さい。
また、ほこり等によって故障する事を防ぐために、本体をカバーで覆って
下さい。

１６．　廃棄処分の注意

機械を使用しなくなった時には、空圧バルブ・シリンダー等の駆動制御部分を外して操作出来なくして下さい。そして、危険の残る部品は無害な状態にして下さい。

処理段階に従い、各部品を仕訳し、鉄はスクラップとして集積センターへ送って下さい。

⚠　注　意
地域の処理基準に従って廃棄処分を行って下さい。

１７．　トラブルシューティング

故　障	原　因	解決方法
-エア供給元と接続されているが、リフトが上がらない	-エア供給元のエア圧が弱い -エア漏れが発生している。（接続部、パイプ部、バルブ部）	-エア供給元のエア圧をチェックする。（１０ＢＡＲ） -接続部、パイプ部、バルブ部からエア漏れが無いか確認し、必要であれば交換する。

１８．部品表について

機械付属の英文取説を参照して下さい。メーカーの都合等により、機種によってはマイナーチェンジ（一部の改良）を行うときがあります。従って他の機械に付属した部品表を参照すると、部品番号が異なっているときが有りますのでご注意下さい。
部品を発注されるときには、８桁の部品番号及び機械本体のシリアル番号を明記の上、発注されるようお願いします。

１９．当機の稼働を始める

当機を設置後、始めて車を乗せた操作を行うときは、許可を受けた熟練した人が行って下さい。
リフトの機能及び全ての安全装置のテストを正しく行うためです。

⚠　注　意
上記の作業は、熟練した人以外には絶対に依頼しないで下さい。

本取説上の各項目及びサブ項目の指示を、確実に正確な順序で実行すれば、機械を壊したり人身に危険をもたらす誤った操作を防止することができます。

⚠　注　意
上記注意事項に従わずに起こった故障はメーカーはその責めを負うものでは 有りません、又その行為によってこの機械の保証書は効力を喪失します。

１９－１　空圧装置

空圧装置接続の重要なポイントは以下の通りです。

－エア供給元からのエア圧が、１０ｂａｒ以上１２ｂａｒ以下であることを
　よく確認して下さい。

－ベースプレートに付いているクイックカプラーに、エア供給元からのパイプを
　接続して下さい。

－リフトの上昇／下降を数回繰り返し、エア供給パイプ・エア接続部等からのエア
　漏れがないか確認して下さい。また構造上過度の摩擦による障害がないか確認し
　て下さい。

１９－２　安全装置

当機の稼働を始める際に、特別の注意を払って下記の安全装置を点検して下さい。

－機械的安全装置の点検
　リフトの上昇／下降を数回繰り返し、機械の作動中（上昇／下降中）機械的安全
　装置の”軸”が、完全に”溝”（ストッパー）から抜けて、干渉していないか確
　認下さい。

CIL.2

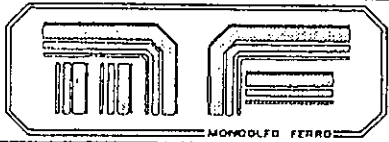
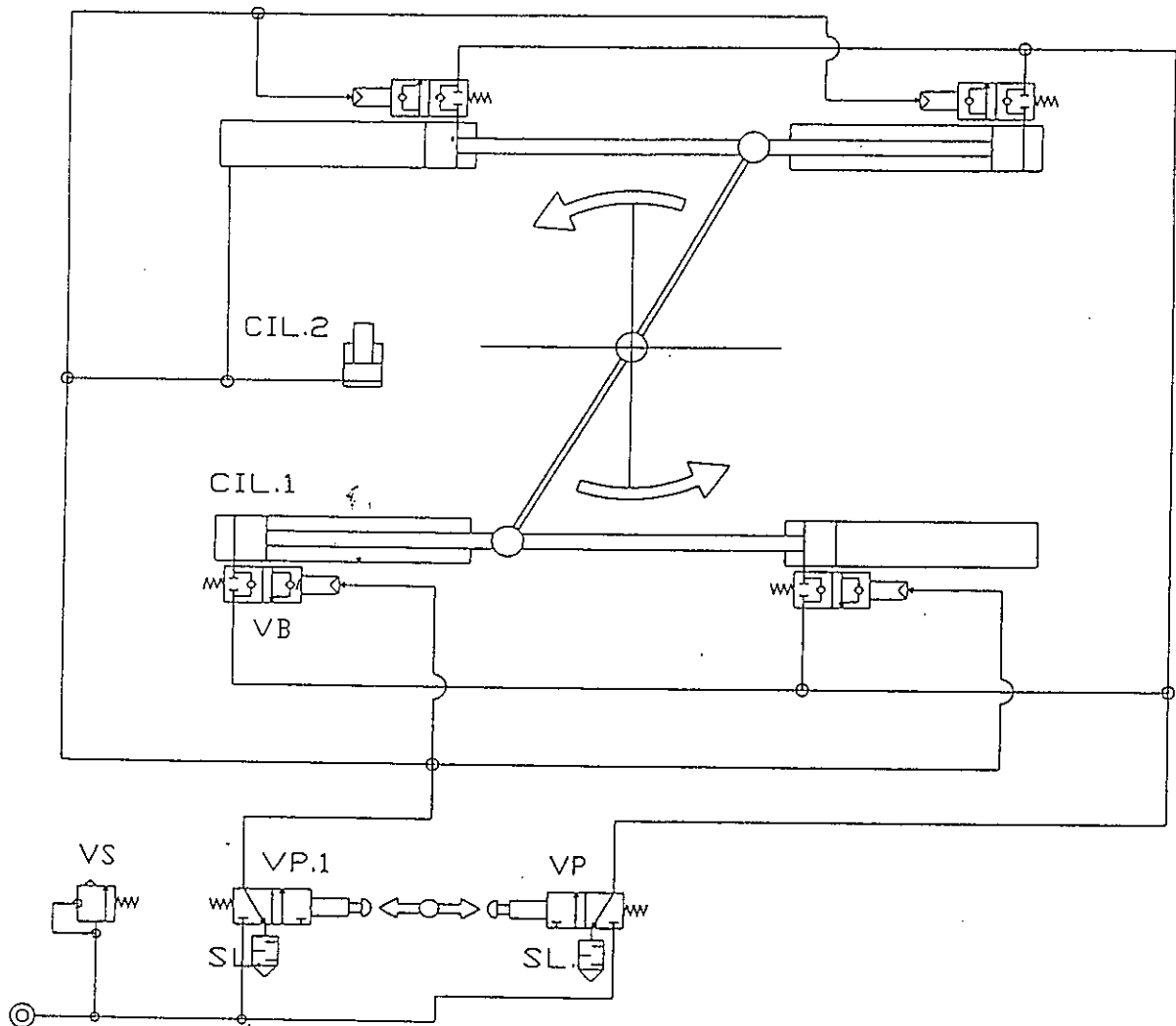
CIL.1

VB

VS

VP.1

VP

SL

SL.

VP　　　：上昇バルブ
VP1　　：下降バルブ
SL　　　：消音マフラー
VB　　　：遮断バルブ（パイロット逆止弁）
CIL. 1：リフティング・シリンダー
CIL. 2：リフティング・シリンダー
VS　　　：安全弁（MAX圧）

00017690